

2011 年

1月22日(土曜日) 京の都にふさわしい、魚も営みも豊かで質の高い「京前の海」 - 京都府水産流通協同組合連合会の創立 50 周年記念式典 -

本日、京都府水産流通協同組合連合会の創立 50 周年記念式典が天橋立で開催された。50 年もの間、早瀬理事長はじめ歴代の理事長、役員、組合員の皆さんが消費品質や経済環境の向上、安定にご尽力され、水産流通業の繁栄と発展に大きく貢献されましたことに深く敬意を申し上げます。

漁価、後継者不足など水産業を巡り様々な課題がありますが、私は、京都の海はものすごく大きな可能性を秘めていると思う。そもそも日本海は、地球の中で中緯度かつ大陸の縁辺にあってこれだけの深さを有する海として大変貴重であると伺っており、このため、深い水量と中緯度の温暖な四季の気候に恵まれて、豊かな農産物とともに、縁辺の陸からの栄養素も加わって多様な水産生物・資源が育まれる環境を有しているのが日本海であります。

そして、日本海の中でも、京都の海は、ちょうど、寒暖の海流が交わる広がりの中にあり、いろんな魚が周辺にいます。近年はサワラがよく獲れ今年はブリ、というように安定性には課題が残るが裏腹に、少し環境が変わればいろんな魚が獲れるフトコロの深さがある。そんな中で、海洋の環境を大切に水産資源の安定性を確保するため、京都府の底引き網漁業の皆さんには、カニや赤カレイの漁獲についてアジア初の国際認証を取られたり、流通の皆さんにはタグ付けなどの品質管理の努力を重ねられたりなど、まさに、京の都の海、京前の海にふさわしい水産の資源と営みが展開されています。

今後とも、流通分野の皆さん、漁業者の皆さんには、京前の海にふさわしい、海を大切にして水産を営む、水産の恵みを海からいただくような思いと営みを大事に、多様で質の高い水産を府内外の皆さんにますます届けていただきたいと願っています。